



## 南通り遺跡

工場のすぐ近く（南西500m）に室町時代の遺跡発見。こんな記事が6月13日の毎日新聞に掲載されました。大小の石の錘（おもり）が見つかったことで、漁村の遺構とされています。15日（土）現地説明会の記事に現場事務所に問合せをすると、鉄片も少し出土しています、とのこと。期待を込めて説明会に出席しました。中心部の溝から出土した、備前の壺とすり鉢、中国の磁器など多数の陶片と共にふいごの羽口が1ヶ展示されていました。

やはり、私の興味をひいたのは鉄片と羽口。鉄片は展示されていませんでした。どこから出土しましたか？鉄片は何に使われていましたか？鍛冶屋はありましたか？色々質問しましたが、緊急調査のため、そこまで手がまわっていないと、あいまいな返事でした。

国道250線のバイパス工事現場で見つかったものですが、現在調査中の室町時代の遺構の下に、奈良や弥生時代の遺跡もありそうなのです。奈良時代と思われる製塩つぼやもっと古いと思われる土器片も少しではあるが発見されているのです。来週の月曜日から、下の層に掘り進みます。皆様に報告出来るような結果が出れば、又、現地説明会を開催しようと思っています。担当官はそう発言されました。漁師と鍛冶屋は関係の深いものです。釣針や銚（もり）などの道具は鍛冶屋が作っていました。この羽口はどんなふいごに使われていたのか？どこの産地の鉄なのか？などなど、興味深々です、次回調査で鍛冶屋跡などが発見されると面白いな！と考えました。



大きい錘



出土の土器片



ふいごの羽口

ふいご：鍛冶屋の大切な道具で、鉄を加工する高温を作り維持する送風機。

羽口：ふいごの風を炉（火床＝ほど）に送るためのパイプ（粘土製）。

詳しくは『むらの鍛冶屋』ホームページのお話シリーズのふいごを参照ください。

